

国学院大学 平成31年1月10日(休) 定期号(毎月10日発行) 1部20円
[発行]国学院大学 [編集]総合企画部広報課 〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目 [電話]03(5466)0130 [FAX]03(5466)0528

祭儀 月次祭 2月1日(金) 午前10時 神殿 ■ 建国記念祭 2月11日(月・祝) 午前11時 神殿

「春のおとづれ」
蒼ぐれ 低き祠は、洗ひ米
蔽の如く散りて 凍れる
（水の上）
釈 遥空

K:DNA

K:DNA——創立136年目を迎えた国学院大学の**遺伝子**…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える



1区 藤木選手 2区 土方主将 3区 青木選手 4区 茂原選手
区間10位 「1年目から大舞台で走れたのは大きな経験。課題を今後生かして、チームの柱になれるよう成長する」
区間7位 「総合7位という結果は非常にうれしい。来シーズンはこの1年以上の結果を残していく」
区間6位 「区間賞獲得はならなかったが、シード権を獲得できうれしい。3大駅伝での区間賞獲得とトラックでの活躍を目指す」
区間14位 「個人では思うような結果が残せず、悔しい。シーズンを通してリベンジを果たす」



5区 浦野選手 (産経新聞提供) 10区 小中選手 (産経新聞提供)
区間10位 「治道の声援が力になった。来年度は3大駅伝での後輩の大活躍を期待したい」
区間12位 「駅伝の難しさ、自身の力不足を実感した。経験を生かし、チームに貢献する走りをしていく」
区間12位 「先輩方に結果で恩返しができる。今後も自分たちの可能性を信じて挑戦してほしい」
区間13位 「アンカーとして皆の思いを背負って走り、シード権獲得を果たせた。3大駅伝全てで最高順位を更新し、新たな歴史を刻んでほしい」
区間1位・区間新 「区間賞、シード権の獲得ができてうれしい。強い国学院を築くためチームの先頭に立ち、走りですていく」

過去最高の総合7位 歴史を変えた一箱根駅伝

平成最後の箱根駅伝。「歴史を変える挑戦」と挑んだ陸上競技部が大学の歴史に大きな足跡を残した。
1月2、3日に22校とオープン参加の関東学生連合によって行われた第95回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)で、陸上競技部は過去最高の7位に入り、7大会ぶりにシード権を獲得した。総合優勝は東海大学、2位は青山学院大学。
4区・茂原大悟選手(史3)から6位でたすきを受けた浦野雄平選手(経営3)は、本学初となる区間新区間賞の快走で、5連覇を狙う青山学院大などを抜き抜けた。(最終面に続く)

みはるかすもの

「平成最後」の年を迎え、日本列島の至る所で平成の30年を振り返る企画が多くなった。区切りを迎える平成の時代を回顧しつつ、新しい時代への期待感もあつて近年にはなかった一年の始まりだ▼平成の30年間で成人式の様子も変化してきた。過去の新聞記事を紐解くと、堅苦しい式典からコンサートなどのアトラクションを取り入れるようになった1990年代初頭、新成人の私語や携帯電話の使用が目立ち、式典の妨害行為まで起きるようになった2000年代と時代によって見出しが変わる▼昨年は、晴れ着業者が突如休業。新成人が晴れ着を着られないトラブルが相次いだ▼こうした中、今年にはバブル世代の親から娘へと振り袖を受け継ぐ「ママ振」に注目が集まる。バブル期に成人式を迎えた母親たちの振り袖は高品質であることも要因だという▼一方で、青森県西目屋村では、昨年夏に予定していた成人式を延期。さらに、13人の新成人の日程調整が折り合わず昨年12月、式典の開催を断念したという。過疎化が進んだ平成という時代を象徴するかのようだ▼「志を立てて以て万事の源と為す」。暮れの教育者で多くの偉人を育てた吉田松陰が、元服を迎えたいとこに贈った「土規七則」の一節だ。平成最後となる125万人の新成人には、次代を担う誓いを立て、新しい時代の扉を自らの手で押し開いてほしい。

亥年特集 平成から新元号へ迎える時代の節目

平成最後の年が明けた。己亥(つちのえ)の今年は、天皇陛下が4月30日に退位され、皇太子殿下が翌5月1日に即位される「御代替わり」の年となる。年内は皇位継承にかかわるさまざまな儀礼が続く、日本は平成から新元号へ移り変わる時代の大きな節目を迎える。
転換期といえば、国内経済では消費税率の8%から10%への引き上げが10月に予定されている。景気への影響や増税分の使い道となる社会保障の在り方は、果たしてどのような推移していくのだろうか。国内政治では統一地方選や参院選が控えており、国民一人一人が選択を問われる一年にもなる。新年を飾る今号では「亥年」をテーマに、バスケットボール男子の国内最高峰であるBリーグ「Bリーグ」で活躍する亥年生まれの院友、岡田慎吾選手(平18卒・14期経)に新年の抱負を伺ったほか、小川直之文学部教授に民俗学の視点から干支にまつわるエピソードを寄せもらった。
「4、5面に関連記事」

箱根往復大学駅伝競走



6区 江島選手 「今回は自分の仕事を果たすことができた。来年度は『3強崩し』をしてほしい」
7区 蜂屋選手 「治道の声援が粘りの走りにつながった。来年度は今年度以上の結果を残してほしい」
8区 殿地選手 「駅伝の難しさ、自身の力不足を実感した。経験を生かし、チームに貢献する走りをしていく」
9区 長谷選手 「治道の声援が力になった。来年度は3大駅伝での後輩の大活躍を期待したい」
10区 小中選手 「アンカーとして皆の思いを背負って走り、シード権獲得を果たせた。3大駅伝全てで最高順位を更新し、新たな歴史を刻んでほしい」

復路4年生4人堅実な走り

目標とした総合8位以内を目指す復路は、当日のメンバー変更で1年生1人、4年生4人を配置。6区・江島峻大選手(経4)以外は初めての箱根となったが、順位を4つ落とししたものの大崩れすることなく、大手町までたすきをつないだ。昨年10月に行われた予選会を4位で突破した本学。3年生の土方主将を中心に、「歴史を変える挑戦」を掲げチームを作り上げてきた。昨年はハーフマラソンや1万円など各種目で学内記録が次々に更新され、全日本大学駅伝では過去最高の6位に入った。
レース後の報告会では、今年3月で定年退職を迎える大森俊夫部長(人間開発学部教授)が「46年間指導をしてきて指導者冥利に尽きる。素晴らしいお祝いもらった」と感慨深げ。前田康弘監督は「卒業生の思いがよみがえって選手に恵まれたと感じた。来年はもっと高いところを目指して戦ってほしい」と意気込みに、土方主将は「歴史を変える挑戦がようやく始まった。来年が勝負。3位を目指したい」と初となる出雲・全日本・箱根の3大駅伝全出場へ向け気持ちを新たにしていた。

第95回箱根駅伝(個人結果)

区間	氏名	所属	区間順位	総合順位
1区	藤木 宏太	神文1	10	10
2区	土方 英和	健体3	7	6
3区	青木 祐人	経ネ3	6	5
4区	茂原 大悟	史3	14	6
5区	浦野 雄平	経営3	1	3
6区	江島 峻大	経4	13	4
7区	蜂屋 瑛拓	法4	12	6
8区	殿地 琢朗	健体1	12	6
9区	長谷 勇汰	史4	12	6
10区	小中 駿祐	経4	13	7

(敬称略)

第95回箱根駅伝(総合順位)

順位	大学名	総合タイム
1	東海大	10時間52分09秒
2	青山学院大	10時間55分50秒
3	東洋大	10時間58分03秒
4	駒澤大	11時間01分05秒
5	帝京大	11時間03分10秒
6	法政大	11時間03分57秒
7	国学院大	11時間05分32秒
8	順天堂大	11時間08分35秒
9	拓殖大	11時間09分10秒
10	中央学院大	11時間09分23秒

以上、シード権獲得(以下略)

博物館 No.19 今月の資料 男神像・女神像

時 代：室町時代・15～16世紀か
一木から作られた一対の男神像・女神像です。仏像は、多くの場合、一定の決まりに従って作成されるため、その姿からどの仏であるか判断することができます。一方で神像は、特定の決まりがないものが多いため、祀られていた場の情報がなくなると、神名の特定がしづらくなります。本資料の神名も明らかではありませんが、近年の調査の過程で、男神像に梅の紋が描かれていることがわかりました。
ウェブサイト案内：http://museum.kokugakuin.ac.jp/

次期学長に針本文学部教授

国学院大学は、現職の赤井益久学長の任期満了に伴い、次期学長選挙で選出された針本文学部教授を、昨年12月13日に開催された理事会で次期学長に選任した。任期は、今年4月1日から4年間。

次期学長選挙の投票は、赤井益久文学部教授、針本正行同教授の2候補に対して11月21日に行われた。即日開票の結果、有効投票数の3分の2以上の得票を獲得した候補者がなく再投票となった。

11月28日に行われた再投票の結果は、針本候補203票、赤井候補176票（投票総数382票、有効投票数379票、無効投票数3票）で、有効投票数の過半数を獲得した針本候補が当選した。



針本正行（はりもと・まさゆき）昭和26年生まれ。67歳。49年国学院大学文学部文学科卒業、54年国学院大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得満期退学。平成8年国学院大学文学部助教授、12年同教授、21年4月文学部長（25年3月まで）、21年4月学校法人国学院大学理事、国学院大学学長職務代理者（在任中）、23年4月国学院大学副学長（在任中）。専門は、平安時代文学。博士（文学）。

歳旦祭を斎行



歳旦祭（斎主・大野靖仁神殿奉斎員・神道研事務部長）が、1月1日午前11時から渋谷キャンパスの神殿で執り行われた。坂口吉一理事長、赤井益久学長をはじめ、本法人傘下諸学校の役教職員、学生らが参列し、今年一年の平安と、本法人の隆昌を祈念した。その後、有栖川宮記念ホールで直会（新年祝賀会）が開催された。

坂口理事長は、「実りの多い一年、成果の出る年とすべく『オール国学院』を胸に、各教育機関の教職員が一体となって邁進していかねばならない。建学の精神を基に個性ある教育研究を推し進め、時代の中核を担う人材を育成する教育機関として、その特色を大いに社会に発信していきたい」と挨拶した。

また、昨年12月23日には平成最後となる天長祭が執り行われ、理事長、学長以下役教職員が参列した。

アジア初購入 中世の世界地図を展示



国学院大学図書館では、イタリアのマルチャーナ図書館所蔵「フラ・マウロのマッパムンディ」の複製をアジアで初めて購入した。この作品は、15世紀に描かれた世界地図で、原寸大の複製品は世界に99点しかない。図の東端に「ジパング」を記した最初の世界地図として知られている。

昨年12月からは、広く学生らの目に触れるようにと、同作品を渋谷キャンパス若木タワー地下1階に展示している。

平成31年度 一般入試出願始まる

平成31年度の本学一般入学試験の出願受け付けが1月4日から始まった。大学入試センター試験利用入試Ⅴ方式（Ⅰ期）は18日、一般入試A日程は21日、同B日程は2月18日、大学入試センター試験利用入試Ⅴ方式（Ⅱ期）は3月2日まで出願を受け付ける（当日消印有効）。

本学ではWEB出願、受験票印刷、合格発表までを集約した「UCARO（ウカロ）」を利用している。出願には、UCAROへの会員登録（無料）が必須となる。

●団体	
団体名	対象事項
卓球部	第88回全日本大学総合選手権大会 団体の部女子団体ベスト8（創部以来初）
●個人	
氏名(所属)	対象事項
谷口 友星(法3)	クラウドファンディングで資金を募り、南アフリカ共和国のスラム街に図書館を建設
浦野 雄平(経営3・陸上競技部)	第21回世界大学クロスカントリー選手権大会 日本代表 個人6位 団体男子銀メダル 混合金メダルに貢献
相田 勇司(法1・柔道部)	全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 男子66kg級優勝 世界ジュニア選手権日本代表選出
長澤 大雅(健体2・柔道部)	全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 男子81kg級準優勝
島田 隆志郎(健体3・柔道部)	全日本学生柔道体重別選手権大会73kg級 準優勝
川村 啓真(経1・硬式野球部)	東都大学野球春季1部リーグ 新人賞
伊藤 雅人(経ネ3・硬式野球部)	東都大学野球春季1部リーグ ベストナイン(三塁手)
小川 龍成(健体2・硬式野球部)	東都大学野球春季1部リーグ ベストナイン(遊撃手)
鎌仲 純平(健体3・硬式野球部)	東都大学野球春季1部リーグ ベストナイン(外野手)

30年度第1回学生部長賞

1団体と9人が受賞

学生部は平成30年度第1回学生部長賞を1団体と9人に贈ることを決定した。同賞は課外活動で素晴らしい成績を収め、本学の名を大いに高めた学生に贈られる。表彰の対象となるのは昨年9月末までの成績。10月以降は第2回の選考対象となる。表彰式は3月に実施予定。

受賞団体・個人（敬称略）は別表の通り。

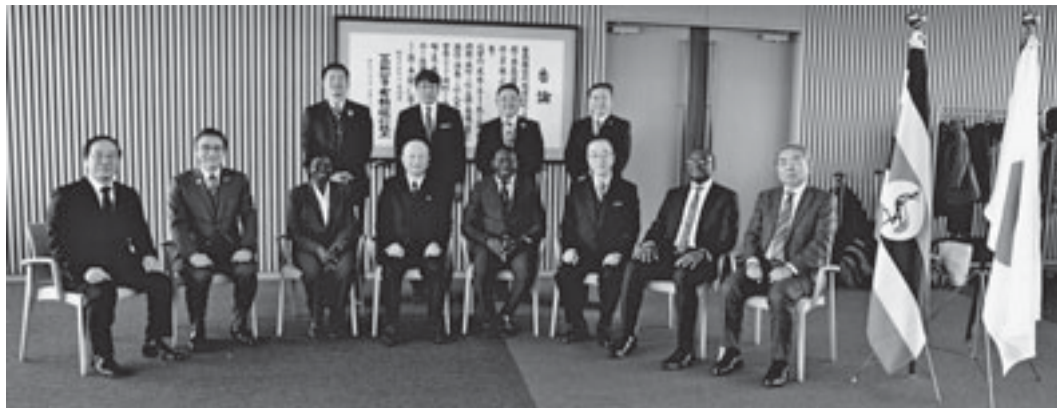


柔道部・島田隆志郎選手



硬式野球部・伊藤雅人選手

ウガンダ代表団が来校 坂口理事長らと懇談



アフリカ・ウガンダの代表団が昨年12月12日、本学を訪れ坂口吉一理事長らと懇談した。ウガンダは、来年の東京五輪・パラリンピックで長野県立科町をホストタウンとして、陸上競技選手が本学厚生寮「蓼科寮」に滞在し合宿をする予定。

今回来日したのはカテンデ・セマクラ・デビッド国家スポーツ審議会事務局長補佐と、ビアトリス・ペイシエンス・アヤコル同国オリンピック委員会副会長ら。坂口理事長は、「ウガンダ陸上競技チームのキャンプが国学院大学の施設で行われることはこの上なくうれしい」と挨拶。カテンデ氏は「スポーツはもろろん学術交流への発展を期待している」と応じた。

同国代表団は、米村匡人立科町長らと共に渋谷キャンパスを視察したのち、同町へ移動。町内の陸上競技施設などを視察した。本法人と同町は11月、相互連携および協力に関する基本協定とウガンダの陸上競技中長距離種目選手らの宿泊先として蓼科寮を提供するための覚書を交わしている。

文学部講演会 アジアの漢字文化の歴史を紐解く



スロベニアのリュブリャナ大学名誉教授で、本学大学院の短期招聘研究員として来日中のアンドレイ・ベケッシュ氏を講師に迎えた文学部講演会が昨年12月20日、渋谷キャンパスで行われた。

ベケッシュ氏は、日本、朝鮮半島、ベトナムが中国の影響を受け漢字を受容してきた歴史から、韓国語や朝鮮語では今はハングルを、ベトナムもローマ字を使用するまでの変遷を紐解いた。

その上で三者三様の歩みの中で漢字を使い続けている日本の文字文化について考察した。

経済学部

ゼミ成果発表会を初開催



経済学部では、ゼミにおける学びの成果を発表することで、問題意識を共有しようと、昨年12月16日、ゼミ成果発表会を渋谷キャンパスで初めて開催した。

全体会では、統一テーマの「ソリューション」に関連した研究発表を「高齢化に伴う新しい市場の開拓」（橋元ゼミ）など6つのゼミが行った。分科会では4つの教室に分かれ、20を超えるグループが日ごろのゼミ活動を通じて学びを深めてきた成果を発表した。発表会には、1年生を中心に約450人の学部生らが参加。1年生は、今後の学修や研究の課題、道筋を見いだそうと熱心に先輩たちの発表をメモに取っていた。

経済学部 本田教授 日本労働ペンクラブ賞を受賞



平成30年度の日本労働ペンクラブ賞（日本労働ペンクラブ主催）の受賞者が発表され、本田一成経済学部教授の『オルグ！オルグ！オルグ！ 労働組合はいかにしてつくられたか』が選ばれた。

表彰式は、1月10日に日本記者クラブ（東京都千代田区）で開かれた同ペンクラブ総会の中で行われ、稲葉康生代表から賞状と副賞が贈られた。本田教授は「これからも頑張って執筆していきたい」と喜びを語った。

受賞作品は、業界最大の産業別組合である「UAゼンセン」のオルグ（オルガナイザー）たちがチェーンストアの労働者を組織化する過程を、緻密なインタビューに基づいて構成されたもの。

訂正
本誌674号（平成30年12月10日）8面の全国高校生創作コンテスト受賞者発表の記事で掲載した集合写真は、「地域の伝承文化に学ぶ」コンテストの集合写真の誤りでした。

本学の機関紙を 定期購読してみませんか？

「国学院大学学報」は、本学のニュースや学生・院友（卒業生）・教職員の活躍をお届けする機関紙（年11回発行、8月は休刊）です。定期購読をご希望の方は、広報課までがき、FAX、メールでご連絡ください（年間購読料：500円〈税込み・送料含む〉）。連絡先は、1面参照。

学問ノ道 第14回

皇典講究所初代所長・山田顕義

国学院の学問と教育

山田顕義は長州藩（現・山口県）の出身である。同藩の吉田松陰に師事し、松陰の没後は高杉晋作らと尊皇討幕運動を展開した。山田は山縣有朋や前原一誠らとともに有能な軍人として知られていたが、一方で幕末期の長州藩における御桶隊時代には、兵式訓練だけでなく論語・孟子・詩経・士規七則などを隊員に講習させていたことから、「教育」を重視した人物であった。

岩倉使節団に随行した際、ナポレオンに関心をもつて以降は法律研究を志し、帰朝後の明治7（1874）年からは司法行政に携わっていた。そして、18年に成立した第一次伊藤博文内閣では、初代司法大臣となった。

皇典講究所と山田との関係は草創期に遡り、15年の同所創立を内務卿として支援した経緯がある。その後、司法大臣として憲法公布や議会開設に向けた準備を進めていった山田は、21年12月に皇典講究所で催された晩餐会の席上において、憲法公布や議会開設をひかえた状況下で、日本文化の究明を担う皇典講究所の有する責任の大きさを説いた。そして、山田が自ら筆をとり、当日配布された「皇典講究所改正ノ件」では、従来



山田顕義
山田は山縣有朋や前原一誠らとともに有能な軍人として知られていたが、一方で幕末期の長州藩における御桶隊時代には、兵式訓練だけでなく論語・孟子・詩経・士規七則などを隊員に講習させていたことから、「教育」を重視した人物であった。

周知の通り山田は軍人・政治家であって学者ではなかったが、一貫して「教育」を重要とする視点は注目される。まさに、そうした山田の「教育」への見識と信念が本学の学問・教育の進むべき方向を明確に規定したのである。

研究開発推進機構助教
高野裕基

亥年 注目の院友

バスケットボール男子プロリーグ「Bリーグ」

三遠ネオフェニックス

岡田慎吾選手



Profile

おかだ・しんご
昭和58年9月12日生まれ、35歳。群馬県桐生市出身。身長188cm、体重83kg。樹徳高校(同市)から国学院大学へ進学。卒業した平成18年、社会人トップリーグのスーパリーグに加盟するオーエスジーフェニックス(現・三遠ネオフェニックス)に加入。プロ化されたbjリーグ時代の浜松・東三河フェニックス(同)では3季連続(21~22年、22~23年、23~24年)でキャプテンを任せられ、チームはこの間の前2季に連覇を飾った。24年、フリーエージェント(FA)権行使して故郷の群馬クレインサンダーズへ移籍し、初代キャプテンに。26年、再びFA権を使って浜松・東三河へ復帰。チームは26~27年に3度目の優勝を果たす。Bリーグ初年度(28~29年)からの参戦に伴い名称変更した三遠の初代キャプテンとなり、昨季まで2季連続で務めた。今季の個人成績は31試合出場、103得点、55アシスト(1月10日現在)。趣味は釣り。家族は妻と5歳、3歳の2男。

地域とのつながり大切に

イントロゲッターが別にいますから、自分としてはどちらかというとシュートのうまい相手選手に仕事をさせないという守備的なプレーが中心になっていてと思います。私には突出したプレーの特徴があるわけではないかもしれません。ヘッドコート(HC)から求められるプレーを一つ一つ、より高いクオリティで遂行できることが私の仕事であり、武器だと思っています。

ベテラン選手として、バスケットボールとの向き合い方は

20代や30代前半と、それほど変わっていないのではないかと考えています。「どうすればうまくいくか」「どうすれば勝てるのか」。今も、そういうことばかりを考えていますから。肉体的にも年齢的な実感はほとんどないです。とはいえ、年齢を重ねるとトレーニングメニューが増えるのとトレーニングの新しいメニューが自分に合えば積極的に取り入れるのが、古いメニューをやるめることができないのです。長年続けてきたトレーニングをやめたら、体が駄目になるのではないかと怖いですね。自分自身に折り合いをつけるのは難しいことだと感じています。

就活半ばで決めた選手の道

本学を進学先に選んだ理由はバスケットボールは小学1年から始め、高校時代も続けていて、いくつかの大学からスポーツ推薦入学のお話をいただきました。ただ、首都圏にある大学チームの試合や練習を見る機会はあるとはよく分かりませんでした。正直に言いますと、決め手の一つは、渋谷にキャンパスがあることでした。渋谷は地方出身の若者にとって憧れの街ですからね。

学生生活はバスケットボール一色に

そんなことはなくて、授業の単位を取るのに一生懸命でした。きちんと授業に出席する部員が同じ学部が多かったのは幸いでした。一人だけサボるわけにはいかず、おかげさまで卒業に必要な単位を3年までに全て取得することができ、4年ではバスケットボールに打ち込みました。アルバイトもいろいろしました。一番気に入っていたのが総菜店です。おかずを持ち帰らせてもらえたので、一人暮らしの食事が助かりました。大学卒業後の進路に、バスケットボール選手としての道を選んだ理由は、大学4年のとき、実業団のトップ選手たちと試合をする機会に恵まれ、その実力に驚く一方で、「自分も通用する」と

ベテランとして求められるプレーより高いクオリティで遂行

バスケットボール男子のプロリーグ「Bリーグ」で戦う三遠ネオフェニックスの岡田慎吾選手(平18年・14期経)は、日本国籍選手として2季連続で最年長のベテランで、昨季まで2季連続でキャプテンを務めてきた。Bリーグ発足前のbjリーグ時代には、三遠の前身である浜松・東三河フェニックスのキャプテンとしてチームの2連覇に貢献。三遠のキャプテンを世代交代した今季も、名門チームの精神的支柱として活躍を続けている。岡田選手に、新年の抱負や試合にかける思い、在学中の思い出について語ってもらった。

花形ポジション

Bリーグは発足から3季目を迎え、人気は着実に高まっています。今季の展望は

チームとして望んでいるような結果はまだ出ていないのですが、練習を積んで上り調子にしたいです。私たちのチームは、日本代表選手が多いわけでも、個人技にたけた選手がたくさんいるわけでもありません。コート上の5人全員でボールを回して攻め、全員で助け合いながら守るチームですから、その特色を押し出していきます。

ポジションのシューティングガード(SG)は米プロバスケットボールリーグ、NBAで活躍したマイケル・ジョーダンら多くの有名選手が務める花形。自身の武器は SGには点をたくさん取れる選手が多いと思います。ただ、私のチームにはポイントガードという自信も感じたのです。当時、銀行を中心に就職活動をしており、面接選考の段階に入っていたのですが、選手としての道へ進むことを決意しました。

学生生活での気づきや成長は 親のありがたみを実感しました。学費や家賃を払ってもらっていろいろからこ通えるのだし、実家は任せてさきりだった家事の大変さも知りました。部活動を通じては上下関係の厳しさを学び、その経験はプロスポーツの世界で、とても役立つと思います。

家族への感謝忘れず

選手としての将来像は 必要とされるうちはプレーを続けていきたいと考えています。40代でプレーしている選手の姿を見ていて、元気が出ますし、「まだまだやるぞ」という気持ちになります。

今年の抱負を

けがをすることなく、チャンピオンシップ(CS)に出場して優勝することです。プライベートでは家族に割く時間を増やし、家族の幸せをもう少し考えてあげようと思います。子どもたちには「パパ、また試合?」と寂しい思いをさせていますから、どこかに連れて行ってあげたいですね。家族あつての自分ですから、感謝を忘れないようにしたいです。

ありがとうごさいます



株式会社フェニックス提供

年頭コラム

今年の千支にちなんで

山の恵みとしての「猪」

小川 直之 文学部教授

明治41年7月、法制局参事官だった柳田國男は宮崎県椎葉村を訪れる。村の入り口の中山峠で迎えたのは村長の中瀬淳らだった。柳田は中瀬宅に泊り、当地で盛んに行われている猪猟のことを中瀬から聞き、山村の暮らしたの当りから。そして帰京後の明治42年には、椎葉村の狩猟文化などをまとめた、『後狩詞記』として50部ほどを自費出版する。書名にある「後」は、古い時代の「狩詞記」のその後、鉄砲時代の狩りという意味で、この本に柳田は「日向国奈須の山村に於て今も行はるる猪狩の故実」の副題を付している。

このことは110年ほど前のことだが、椎葉村など宮崎県の山間部では、冬になるとジビエとしての猪狩りが現在も行われている。針葉樹の植林などによって山の生態系が変わり、時に猪は里にまで下りてきて畑を喰い荒らす獣にもなったが、椎葉村を訪ねた時には、山でドングリと蛇を食べて成長した猪の肉は、とろけるようにうまいと教えられ、焼いた猪肉を何度もご馳走になっている。猪肉といえば、臭いので味噌鍋にしてとばかり思っていたが、猪の焼き肉の味は絶品といえる。

猪狩りの季節である冬は、この地域では夜を徹しての夜神楽の季節でもある。その時の「賄い」に村人たちは猪肉を持ち寄る。これを相伴させてもらって食べるわけだが、椎葉村の尾前神楽などは、神楽の最初に「板おし」といって、生の猪頭に刃物を当てながら猪霊を慰め、感謝を捧げる神事がある。山からの恵みである猪を獲って食べるだけではなく、その「いのち」への祈りを忘れないのである。



▲村所神楽・ししとぎり ▲銀鏡神楽・ししとぎり

国内外の主な動き

- 2月 1日 ●日本と欧州連合(EU)の日 EU経済連携協定発効
24日 ●天皇陛下御在位三十年記念式典
29日 ●英国のEU離脱予定
3月 1日 ●改正出入国管理法施行
7日 ●統一地方選前半戦投票
21日 ●統一地方選後半戦投票
30日 ●選位礼正殿の儀
5月 1日 ●即位の礼(剣璽等承継の儀、即位後朝見の儀)
7月 6日 ●サッカー女子ワールドカップ(W杯)開幕(〜7月7日、フランス)
28日 ●20カ国・地域(G20)首脳会議(サミット)開幕(〜29日、大阪市)
7月 12日 ●水泳世界選手権大会開幕(〜28日、韓国・光州)
24日 ●東京五輪まで1年
28日 ●参院議員(改選組)任期満了
8月 25日 ●東京パラリンピックまで1年
●柔道世界選手権大会開幕(〜9月1日、東京)
●柔道世界選手権大会開幕(〜9月1日、東京)
31日 ●バスケットボールW杯開幕(〜9月15日、中国)
20日 ●ラグビーW杯開幕(〜11月2日、日本)
27日 ●陸上世界選手権開幕(〜10月6日、カタール・ドーハ)
10月 1日 ●消費税率8%から10%に。軽減税率導入
22日 ●即位礼正殿の儀
11月 9日 ●ベルリンの壁崩壊から30年
14日 ●大嘗祭の主要儀式「大嘗宮の儀」(〜15日)
30日 ●新国立競技場完成
●女子ハンドボール世界選手権大会開幕(〜12月15日、熊本)
12月 3日 ●米ソ首脳冷戦終結宣言から30年
●明治神宮ミュージアム開館
今秋

大学・強化3部会の主な動き

- 1月 24日 ●後期授業終了
25日 ●学年試験(〜31日)
2月 2日 ●一般入試 A日程(〜4日)
25日 ●一般入試 B日程
3月 15日 ●大学院修了式
17日 ●卒業式
18日 ●スプリングセッション(〜21日)
4月 1日 ●文学部第二部、政治学部第一部(次年度に政経学部と改称)開設から70年
●教育開発推進機構発足から10年
2日 ●入学式(学部)
8日 ●授業開始
月内 ●硬式野球部・東都大学野球春季リーグ開幕
1日 ●神楽鎮座記念祭
26日 ●柔道部・東京学生柔道優勝大会
22日 ●柔道部・全日本学生柔道優勝大会(〜23日)
25日 ●前期授業終了
26日 ●前期試験(〜8月1日)
9日 ●夏季休暇(〜9月19日)
8月 2日 ●サマーセッション①(〜5日)
9日 ●サマーセッション②(〜12日)
20日 ●後期授業開始
28日 ●柔道部・全日本学生柔道体重別選手権大会(〜29日)
月内 ●硬式野球部・東都大学野球秋季リーグ戦開幕
14日 ●陸上競技部・出雲駅伝
20日 ●柔道部・全日本学生柔道体重別団体優勝大会(〜21日)
11月 4日 ●創立記念日
月内 ●若木祭
●陸上競技部・全日本大学駅伝
12月 26日 ●年内授業終了

インフォダイジェスト

…在学生 …保護者 …卒業生 …一般 …受験生
内容 日にち 時間 場所 対象 申し込み 料金 問い合わせ

大学からのお知らせ

2・3月中の事務室開室および証明書自動発行機稼働日程

2・3月中の下記事務室の開室と証明書自動発行機の稼働日時は、渋谷・たまプラーザキャンパスとも本学HPを参照してください。

▶神道研修事務課、教務課、学修支援センター相談室、ボランティアステーション、LLC、教職センター、大学院事務課、学生生活課、保健室、学生相談室、キャリアサポート課、国際交流課、たまプラーザ事務課、図書館、コンピューター自習室

平成30年度の成績通知と卒業者の発表

因K-SMAPYIIで発表します。4年生は卒業判定を兼ねます。

日3月2日(日)

国学院大学生協への出資金返還

因生協加入時にお預かりした出資金の返還手続きを開始します。

日3月5日(火)～

時生協事務所の営業時間内

場生協事務所(渋谷・たまプラーザ)

対今年度卒業生

問(☎03・5466・0165)

※生協事務所の営業時間は生協HPを参照(<http://www.kgucoop.or.jp/>)

イベント 30

大学院学位記授与式

因大学院の第67回学位記授与式を以下の通り執り行います。

日3月15日(金)

時11時～

場渋谷キャンパス常磐松ホール

問大学院事務課

(☎03・5466・0142)

※13時から有栖川宮記念ホールで祝賀会を開催します

合格者向けオープンキャンパス

因入学直前の不安を在学生在が解消します。本学の情報発信を担う学生アドバイザーが、さまざまな企画を用意してお届けする「大学生のリアルな生活」を紹介します(予約不要・入退場自由)。

日2月16日(土)

時正午～16時

場渋谷キャンパス

対本学入学試験合格者

問入学課(☎03・5466・0141)

時14時30分集合、17時15分解散(試験時間は2時間)

場渋谷キャンパス(教室は試験1週間前をめどにお知らせします)

料3500円

対学部2～4年生、大学院生

申2月26日(火)までに自動証紙発行機で証紙を購入し、各キャンパスのLLCに提出

問▶渋谷:LLC(百周年記念館)

▶たまプラーザ:LLC YOKOHAMA OFFICE(1号館)

「文学塾」受講生募集

因本学文学部が主催する高校生のための新たな学びの場として文学塾が開講します。文学部5学科の専任教員が下表のように専門性の高い内容で講義し、「もっと深く学びたい」「もっといろいろなことを知りたい」という知的好奇心の強い皆さんの期待に応えます。「文学部で学ぶ喜び」を体験してください!

日3月23日(土)

時▶1限=10時30分～12時

▶2限=12時50分～14時20分

▶3限=14時30分～16時

場渋谷キャンパス120周年記念1号館

料無料

対高校生(教諭含む)

申本学HP(<https://www.kokugakuin.ac.jp/event/98599>)から申込用紙をダウンロードし、必要事項を記入して☎(03・5466・4814)、✉(bun_siryo@kokugakuin.ac.jp、件名は「文学塾受講申込」)で送信。複数講座受講も可能。各講座の定員に達し次第、締め切ります。

問文学部資料室(☎03・5466・4813)

文学塾の講義一覧

▶日本文学科 統一テーマ『源氏物語』	
1限:『源氏物語』、何がそんなにスゴイのか?	山田利博教授
2限:『源氏物語』を文法的に読む	小田勝教授
3限:『源氏物語』と雛祭り	服部比呂美准教授
▶中国文学科	
1限:孔子は「仁」をどのように語ったのか-注釈を通して考える-	青木洋司助教
2限:『孫子』を読む-注釈者たちの描く「戦」のかたち	長谷川清貴准教授
3限:中国現代詩を読む-『春水』の翻訳を比較して	牧野格子准教授
▶外国語文化学科 統一テーマ:愛とは何か、多角的に考える	
1限:愛の論理学	高橋昌一郎教授
2限:アメリカ文学における愛のカタチ	福井崇史准教授
3限:愛を知らなかった中国	白井重範教授
▶史学科	
1限:古墳を発掘する	青木敬准教授
2限:こんなにも変わった!明治維新研究	吉岡孝教授
3限:中国の歴史展開と地理	金子修一教授
▶哲学科	
1限:感性化する社会	松谷容作准教授
2限:インド人嘘つかない?-インド哲学における嘘つきのパラドックス	渡辺俊和助教

キャリアサポート

就活直前対策講座

因「就職活動の準備に出遅れてしまった」「準備はしているけど不安で…」といった学生向けに、これからでも間に合う就活の対策方法、動き方などを伝授します。

日2月5日(火)～8日(金)

対3年生

OB・OG訪問アドバイス会

因各業界で活躍する先輩から、就職活動に関するアドバイスが聞ける企画です。残業時間や給与など、説明会等で人事担当者には聞きづらい質問も、先輩であれば気軽に聞け、業界や企業の実態についてリアルに知ることが出来るはず。日・時2月9日(土)午後

対1～3年生

※いずれも渋谷キャンパスで開催。詳細確認・申し込みはK-SMAPYIIより行って下さい

本紙へのご感想をお待ちしています

「国学院大学学報」では、読者の皆さまからのご意見・ご感想を募集しています。掲載された方には、本学オリジナルグッズを進呈いたします。ご投稿は以下の要領でお願いします。

①今号の満足度5段階(低1～5高) ②本紙へのご意見③住所④氏名⑤所属など(在学生の場合「学科・学年」、保護者、院友(本学卒業生)、本学・本学教職員、その他いずれかを明記の上、ハガキ・FAXで国学院大学広報課(連絡先は1面参照)までお送りください。また、QRコードよりEメール作成画面を開くことができます。なお、お送りいただいた方の個人情報保護は法令に基づいて取り扱います。

※お寄せになられた原稿・お便りは返却いたしません



「無害であくせく働く者(harmless drudge)」とシニカルに定義して

ある古い辞書では、辞書編纂者を「無害であくせく働く者(harmless drudge)」とシニカルに定義して

には、母語と外国語の双方に深く通じていなければならない。国語辞書や英英辞書のような一言語辞書の場合には、母語話者の鋭い、時には身勝手な批判の目にさらされる。



若木が丘 だより

文学部教授 野呂 健

この定義を知ったときには、うまいなと思うと同時に、正直、切ない気持ちになった。無害かどうかは別として、だって誤った記述や説明をしたら有害だから、世間的に見れば手のかかるやつみたいな仕事を日々こつこつこなしている人物にもう少し光を当てて、好意的な目を向けていいのではないかと、思ったりした記憶がある。その意味で、三浦しをんの『舟を編む』は悪くなかった。私の考えでは、辞書を執筆する人こそ最も偉大な言語学者である。理論言語学の方面

無害であくせく働く者

柔道部

過去最多68校の高校生が熱戦 松尾三郎杯争奪全国選抜 高等学校柔道大会

第32回国学院大学松尾三郎杯争奪全国選抜高等学校柔道大会（国学院大学柔道部主催、毎日新聞社、スポーツニッポン新聞社後援）が昨年12月23日、たまプラーザキャンパス体育館で開催された。

大会には、全国から過去最多の68校が出場。1校5人で対戦する団体トーナメント戦で進められた。決勝戦では、国土館高（東京）が日体大荏原高（同）を下し、6年ぶり16回目の優勝を果たした。3位は、作陽高（岡山）と崇徳高（広島）。優秀選手には長谷川碧、藤永龍太郎（いずれも国土館高）、平山才稀（日体大荏原高）、高橋翼（作陽高）、福永夏生（崇徳高）の5人が選ばれた。

本大会は、松尾三郎元理事長のスポーツ振興、とりわけ柔道振興に尽力した功績を顕彰することなどを目的に毎年開催され、柔道部員が主体となって運営している。会場には国際規格の柔道畳が敷き詰められ、国内トップクラスの審判員が試合を裁いた。

館内の柔道場では、トーナメントに敗れた高校同士が練習試合に励み、新年の飛躍を胸に稽古に汗を流す姿が見られた。



ローラーホッケー部

世界を経験して得た大きな成長 日本代表3選手に聞く

——石川友望選手（初教4）、国分希海選手（子支4）、大津拓真選手（健体3）



4輪のローラースケートを履き、木製のスティックを使ってゴム製ボールのパックを相手ゴールに入れて得点を競う「ローラーホッケー」。国内での認知度は高いとはいえないが、欧州ではプロリーグも存在するほど盛んなスポーツだ。日本代表に選出された経験を持つ、国学院大学ローラーホッケー部員の石川友望（初教4）、国分希海（子支4）、大津拓真（健体3）の3選手に聞いた。

——日本代表として参加した大会は

石川選手 私と国分は、平成29年8～9月に中国で行われた第1回ワールドローラーゲームズ（WRG）、昨年9月に韓国で開催された第18回アジア選手権に出場しました。小柄な分、スピードを出せたり小回りがきいたりするところが日本の強みですが、それが通用せず、WRGでは1勝もできませんでした。アジア選手権は、日本、インド、中国の3チーム中2位という結果でしたが、WRGに続き、ここでもインドに勝てず、悔しかったです。

大津選手 僕は昨年のアジア選手権が初招集で、結果は7チーム中3位。あまり出場機会がなかったので悔しさが大きかったです。社会人や世界の選手との間にある力の差を感じました。



——大津選手は学生最後の年度を迎える

大津選手 今年スペインで開催される第2回WRGの代表選手に選ばれることと、社会人も参加する全日本ローラーホッケー選手権大会で優勝することが目標です。今年は全ての試合に勝って、笑顔で終えたいです。

——大学生活でのローラーホッケーはどんな存在

国分選手 楽しいことばかりではなく、大変なこともたくさんありましたが、そういうことを乗り越え、大切に思い合える仲間ができたことは財産です。

石川選手 「青春」そのものでした。昨年のインカレ優勝という形で終わることができ、学生生活を部活動に捧げて本当によかったです。



インタビューの詳細は、本学ホームページ内「国学院メディア」に掲載。

全学応援団連続インタビュー(下) ブラスバンド部

自ら楽しみ「音」でエールを

国学院大学全学応援団の活動を紹介する連続インタビューでトリを飾るのは、さまざまな応援シーンを「音」で演出するブラスバンド部。発足4年目の若い集団を率いてきたのは、青木未萌さん（神文4）と森田光里さん（法4）の1期生2人だ。

楽器経験ゼロだった青木さん。「新歓で『ブラスバンドなら初心者も可能』という説明を聞き、入団を決意しました」という。「駅伝応援にも行かせてもらえましたが、硬式野球部の試合では、たとえ負けたとしても『次はやってくれる』と前向きな思考で演奏を続けてきました」と語る。実習が必須の神職課程を履修しているため多忙を極めたが、「充実した4年間」と満足げ。さらに「礼儀作法など、ブラスバンドでの経験すべてが今後の人生の役に立ちます」とも自負している。

部の創設時には演奏経験のある上級生が支えてくれたが、実質的に部を育ててきたのは1期生2人。最上級生となって部長を任された青木さんは「女子部員はスカートスーツ着用でしたが、寒さ



対策や動きやすさを考えパンツスーツに替えました」と、この4年間の試行錯誤と成長ぶりを振り返る。

そんなブラスバンド部に大きな贈り物があつた。部を指導する松永敦さんがオリジナル曲「若木行進曲」を作ってくれたのだ。「部員不足のため1年目の団祭は十分な演奏ができなかった」（森田さん）という悔しい思いをした1期生も、4年間の総決算である今年の「赤紫の契り」で30分ものステージを任せられ卒業に花を添える形となった。

「応援は自分も楽しみながらでないとダメ。楽しい気持ちがあれば選手にもお客さんにも伝わりません」と言い切る青木さん。「赤紫の契り」を無事に終え、運営を後輩に引き継いだ今、大きな達成感に包まれている。

全学応援団 3部構成で華やかに「赤紫の契り」

国学院大学全学応援団（杉田大樹団長＝史4）の一年を締めくくると「赤紫の契り」が1月5日、渋谷キャンパス百周年記念講堂で開かれた。会場には多くの観客が詰めかけ、3部構成による応援の妙技を堪能した。

「幹部」として団を引っ張った4年生の卒業を祝う意味も込められているイベントで、ブラスバンド部、リーダー部、チアリーダー部BUNNYSがパートごとに登場。4年生が中心となって華やかなステージを展開し、新たに作られたブラスバンド部のオリジナル曲「若木行進曲」も披露した。閉会の儀では観客とともに団員全員が校歌を斉唱して締めくくった。

演技を終えた杉田団長は「初めて3部がそろった代としてきついことも多かったが、悔いのない一年にできた」と総括。団を引き継いだ細谷慶太郎新団長（法3）は「先輩に作ってもらった3部の根をしっかりと張る時代にしたい」と決意を語った。

